

「開倫塾の時間」27年目、突入記念

—よい先生の10の条件とは—

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
2. この「開倫塾の時間」は、社会人を含めてどのように勉強したら効果的な勉強ができるのかということについてお話をさせていただく番組です。26年前の3月第1週から始めさせていただきましたので、今日から27年目に入ります。長いこと聴いていただきまして、本当にありがとうございます。
今日は記念すべき27年目の第1回の放送ですので、勉強の仕方にも少し関係のある「よい先生とはどのような先生なのか」について具体的なお話をさせていただきます。全部で10項目あります。
3. 一番大事なものは授業ですので、授業のねらい・目的、つまり、この授業を受けたら最後にはどのような力がつくのかを明らかにしてから授業をする方がよい先生だと思います。そして、授業の最後に教わった生徒さんがこの授業を受けてこのような力がついたと認識できれば、こんなによい先生はいないと高い評価を得られると思います。このように、よい先生の条件の1番目は、授業の目的・ねらい・到達点が明確になっていることだと思います。
4. そのような素晴らしい授業をするためには、レッスンプラン(授業の設計図)がよくできている・練られていることが必要だと思います。学校の先生や学習塾の先生に成り立ての頃は、このように授業をしようとレッスンプラン(授業の設計図)をきちんと書いて授業を行うのですが、慣れてくるとそういうことをなかなかしなくなります。そのため、ぶっつけ本番の授業になってしまうことが多いのが現実です。ぶっつけ本番の授業を避けるためにも、初心に戻ってレッスンプランをよく練ってから授業をする・授業の設計を明確にしてから授業をする必要があります。よい先生の2番目の条件は、これをしっかりと行う先生です。
5. 3番目は、授業を受けた生徒さんが「ああ、そうか。そうだったのか」と納得できる・腑に落ちるような理解しやすい授業をする方がよい先生だと思います。先生はよくわかっているけど、先生の言葉が足りなくて、教わる生徒さんのほうは先生が何を言っているのかわからないというのでは本当に困ってしまいます。ですから、「うん、なるほど」とよく納得できる・腑に落ちる授業をする先生、理解しやすい授業をする先生がよい先生であると思います。

6. 4 番目は、板書です。黒板に書いた字がわかりやすく、また、黒板を使った説明が上手な先生がよいと思います。その関連で、生徒さんたちは黒板を見てその内容をノートに書き取りますので、ノートの取り方も指導してくれる先生はよい先生であると思います。ノートの取り方を指導すると同時に、そのノートの内容をどのように身に付けるかについても指導してくれる先生は、さらに素晴らしい先生といえます。
7. 5 番目は、私は話をするとき口ごもってしまうほうなので、そのようなことを言える立場ではないのですが、発声がわかりやすく、語尾が明瞭で教室の隅々まで声がよく聞こえることが、よい先生の条件であると思います。
8. 6 番目は、学習者の自覚を促したり、学習への意欲を高めたりできるようなお話を 1 回の授業中に 1 回ぐらいはしてくれる先生が、よい先生であると思います。「何のために勉強するのか」というお話や、「あなたたちはこういう立場なのだから、その立場をよくわきまえた上で勉強したほうがいいよ、また、人生を過ごしなさい」といった有難いお話をしてくれる先生はよい先生だと思います。
9. 7 番目は、生徒さんたちにもう一回先生の授業を受けたいと思ってもらえるような先生です。
10. 8 番目は、勉強の仕方・学習の仕方を教えてくれる先生です。どのようにしたら学べるのか、その勉強の仕方・学び方をよく教えてくれる先生、そして、生徒さんたちが自分自身の勉強の仕方を確立することに対して熱心に支援をしてくれる先生は素晴らしいと思います。
11. 9 番目は、読書や新聞を読むことを推奨してくれる先生です。先日、私はたまたま東京都の都立高校の問題を見ました。その国語の問題が果たして何文字ぐらいできているか数えましたら、だいたい 16000 語ぐらいの文字が使われていました。16000 語は、普通の本でいうと 20 ページぐらいのページ数になります。20 ページ分ぐらいの難しい内容の文章を素早く読み解いて設問に答えるというのは、よほどの力がないとできません。ですから、読書は受験勉強のためにも大事ではないかと思います。また、新聞を読むと自分で考える力が身に付きます。世の中のことについてどういことがよいことか・悪いことかを自分で考える力が身に付きます。本や新聞をよく読み込んで読解力をつけ、自分で考える力を身に付けることを指導してくれる先生も素晴らしいと思います。
12. 10 番目はよい友達・よい仲間を作ることを助けてくれる先生です。教室という場所は、励まし合う仲間を作るのに非常によい場所です。学校に行ったり学習塾に行ったりして教室で勉強すると、学友というか、よき友というか、よい友達を作ることができます。ですから、それを助けてくれる先生は素晴らしいと思います。また、いじめが問題になっていますが、いじめのないクラスや学校、校内暴力のないクラスや学校をつくることに尽力してくれる先生も素晴らしいと思います。
13. 今日は、この放送が 27 年目にいただきましたので、よい先生の条件とは何かについてお話をさせていただきました。放送をお聴きの皆様にもいろいろな考えがあると思います。できれ

ば御自身が今までに教わった先生方を思い返し、あんな先生がよかったな・こんな先生に教わりたいなということをまとめて、どのような先生がよい先生かをお考えいただきたいと思います。そして、それを学校に伝えていただいたり、お子さんがいらっしゃいましたら、こんな先生がよい先生なんだよと教えていただきたいと思います。

14. 先生にも弱点がたくさんありますので、できれば先生の弱点にはすべて目をつむり、素晴らしさだけを見つめていただきたいと思います。そして、こういう素晴らしいことについて得意な先生に教わられてよかったと認めていただければ勉強も進むと思いますので、どうかよろしく願いいたします。

15. この放送を26年もの長い間お聴きいただきまして、本当にありがとうございました。今回から27年目に入りますので、ぜひ皆様の御指導を賜りたいと思います。そして、これから先も少しずつ勉強を積み重ねて、この放送を続けさせていただきたいと思います。どうかよろしく願いいたします。

— 2013年6月12日加筆・訂正、林明夫 —